

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q-1 室内環境			0.30			3.0
1 音環境		3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	-
1 1 騒音レベル	室内増騒音50dBを標準とする。	3.0	1.00	-	-	-
1.2 遮音	T-2以上とする。	3.0	0.40	-	-	-
1 1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-	-
1 2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	-
1 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-
1 4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	-	-	-
1.3 吸音		3.0	0.35	-	-	-
2 温熱環境		3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.30	-	-	-
1 室温設定	夏季26℃・冬季22℃を標準とする。	3.0	0.20	-	-	-
3 外皮性能		3.0	0.50	-	-	-
4 ソーン別制御性		-	-	-	-	-
2.2 湿度制御	全期50%を標準とする。	3.0	0.20	-	-	-
2.3 空調方式	製造諸室にあっては中央換気方式とする。	3.0	0.30	-	-	-
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-	-
1 昼光率	工場の性格上、昼光は利用しない。	3.0	0.60	-	-	-
2 方位別開口		3.0	0.40	-	-	-
3 昼光利用設備		3.0	0.30	-	-	-
3.2 グレア対策		3.0	1.00	-	-	-
2 昼光制御		3.0	0.15	-	-	-
3.3 照度		3.0	1.00	-	-	-
1 照度	750~1500lxを標準とする。	3.0	0.25	-	-	-
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	-
4 空気質環境		3.0	0.50	-	-	3.0
4.1 発生源対策		3.0	1.00	-	-	-
1 化学物質汚染	発生源発生室で第1種換気にて対応を標準とする。	3.0	0.30	-	-	-
4.2 換気		3.0	0.33	-	-	-
1 換気量	中央換気を標準とする。 16回or20回を標準とする。	3.0	0.33	-	-	-
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮	全熱交換機(ロスナイ)を採用する。	3.0	0.20	-	-	-
4.3 運用管理		3.0	0.50	-	-	-
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	-
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	-
Q-2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.0
1 機能性		3.0	0.40	-	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.33	-	-	-
1 広さ・収納性	生産設備と作業性を重視した広さ・天井高さとする。	3.0	0.33	-	-	-
2 高価値設備通信設備対応		3.0	0.33	-	-	-
3 バリアフリー計画		3.0	0.40	-	-	-
1.2 心理性・快適性		3.0	0.33	-	-	-
1 広さ感・景観	生産設備と作業性を重視した広さ・天井高さとする。	3.0	0.33	-	-	-
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	-
3 内装計画		3.0	0.31	-	-	-
2 耐用性・信頼性		3.0	0.48	-	-	3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.20	-	-	-
1 耐震性	建基法による。	3.0	0.29	-	-	-
2 免震・制振性能		3.0	0.12	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.29	-	-	-
1 外壁仕上げ材の補修必要間隔	適切な維持管理により更新する。	3.0	0.29	-	-	-
2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.29	-	-	-
3 配管・配線材の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-
4 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.19	-	-	-
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	適切な維持管理により更新する。	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
6 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性			3.0	0.29	-	3.0
3.1 空間のゆとり			3.0	0.31	-	-
1 階高のゆとり	配管・ダクト設備の施工容易な階高を確保する。		3.0	0.60	-	-
2 空間の形状・自由さ	詳細階を無柱(構造柱)空間とする。		3.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-
3.3 設備の更新性	配管・ダクト設備の施工容易な階高を確保する。		3.0	0.38	-	-
1 空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-
2 給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-
3 電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-
4 通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-
5 設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-
6 バックアップスペース			3.0	0.22	-	-
Q-3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	3.0
1 生物環境の保全と創出	虫等の防除に考慮する。		3.0	0.30	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	景観の調和を考慮する。		3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.60	-	-
3.2 敷地内温暖環境の向上			3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.0
LR-1 エネルギー			-	0.40	-	3.0
1 建物の熱負荷抑制	外被壁屋根に省エネ建材を使用する。		3.0	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.60	-	-
2.2 自然エネルギーの交換利用			3.0	0.60	-	-
3 設備システムの高効率化	電気ヒートポンプ方式・高効率照明器具を採用する。		3.0	0.43	-	3.0
4 効率的運用			3.0	0.29	-	3.0
4.1 モニタリング			3.0	0.60	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-
LR-2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.0
1 水資源確保			3.0	0.15	-	3.0
1.1 節水	節水形器具を採用する		3.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60	-	-
1 雨水利用システム			3.0	0.67	-	-
2 雑排水利用システム			3.0	0.33	-	-
2 低環境負荷材			3.0	0.85	-	3.0
2.1 資源の再利用効率	外部舗装材の一部に再生材を用いた材料を採用する。		3.0	0.35	-	-
1 躯体材料の再利用効率			3.0	0.67	-	-
2 非構造材料の再利用効率			3.0	0.33	-	-
2.2 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.04	-	-
2.3 有害物質を含まない材料			3.0	0.08	-	-
2.4 既存建築躯体などの再利用			3.0	0.18	-	-
2.5 部材の再利用可能性			3.0	0.18	-	-
2.6 フロン・ハロンの回収			3.0	0.18	-	-
1 消火剤			3.0	0.33	-	-
2 断熱材			3.0	0.33	-	-
3 冷媒			3.0	0.33	-	-
LR-3 敷地外環境			-	0.30	-	3.0
1 大気汚染防止			3.0	0.15	-	3.0
2 騒音・振動・悪臭の防止	適法処理し、極力環境の改善に寄与する。		3.0	0.15	-	3.0
2.1 騒音			3.0	0.33	-	-
2.2 振動			3.0	0.33	-	-
2.3 悪臭			3.0	0.33	-	-
3 風害、日照障害の抑制	極力南側に計画、北側隣接地への日影の影響を少なくする。		3.0	0.15	-	3.0
3.1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-
3.2 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-
4 光害の抑制			3.0	0.10	-	3.0
5 温暖環境悪化の改善			3.0	0.30	-	3.0
6 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.15	-	3.0
6.1 雨水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-
6.2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-
6.3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-
6.4 廃棄物処理負荷			3.0	0.25	-	-

■ LR-1 用途別得点表		工場	-	-	-	面積按分 総合スコア
		2180 m ²	-	-	-	
1 建物の熱負荷抑制		-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化	ERRIによる評価 個別設備による評価	3.0	-	-	-	3.0
3.1 空調設備		-	-	-	-	-
3.2 換気設備		-	-	-	-	-
3.3 照明設備		3.0	-	-	-	-
3.4 給湯設備		-	-	-	-	-
3.5 昇降機設備		-	-	-	-	-